

令和5年度 第1回米子市図書館協議会・会議概要

- 日 時 令和5年5月31日（水） 午後2時から午後3時35分まで
- 場 所 米子市立図書館 研修室1、2（2階）
- 出席者 委 員
渡邊 眞子（会長）、上村 一也（副会長）、足立 彰子、福田 知浩、
卜蔵 久子、坂口 浩子、金本 由香、小原 葉子、吉井美和子
事務局
（米子市立図書館）永瀬館長、（一財）米子市文化財団 佐藤図書課長
（米子市教育委員会）毛利生涯学習課長、木嶋生涯学習課担当課長補佐、
新見生涯学習課主事
- 欠席者 中井 康恵
- 傍聴者 1人
- 報道関係 なし

【協議会の概要】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 新館長あいさつ

4 議 事

(1) 令和4年度事業報告及び決算について

《事務局説明》

資料1から資料3までについて説明するとともに、口頭で来館者数や貸出冊数、事業実施の状況（コロナ禍の影響を踏まえて）及び自衛消防訓練の実施について報告した。（概要は以下のとおり）

○資料1「令和4年度図書館実施事業等」

- ・令和4年度も引き続きコロナ禍ではあったが、計画したほとんどの事業が予定通りできた。
- ・健康長寿サービスとしての「いきいき長寿音読教室」、また教養講座「古文書研究会」「百人一首を読み解く」また親子で読み聞かせを楽しむ「おはなし会」などボランティアの方々との連携により実施した。
- ・ビジネス支援事業として、9つの相談会・講義を専門機関との共催で開催した。高校生のためのビジネスプラン作成講座では、高校生14人の参加があった。
- ・子どもの読書活動推進事業として、末宗辰彦さんによる講演会「コロナ禍で見えて

きた読み聞かせの格差」を開催した。

- ・ジュニア司書養成講座では、小中学生 16 人を対象に座学と実習による図書館に興味を持ってもらう養成講座を行った。
- ・乳幼児の読書、子育て支援として、ブックスタート事業（ふれあいの里、6 か月検診時）に図書館司書が出張し、読み聞かせと絵本の大切さについて集団指導を行った。
- ・一般事業として、図書館まつりを開催した。図書館友の会やボランティアの協力もあり、古本市は 894 人の方に本を持ち帰ってもらった。また、はじめてのイベントとして、映画上映会や「移動図書館車と写真を撮ろう」なども実施した。
- ・館内見学・探求学習は、17 回、561 人の保育園・学校・公民館からの申し込みがあり、受け入れた。特に、小学校 2 年生の生活科の授業の一環として、図書館の利用方法、バックヤードの見学、古書から新書までの資料の紹介を行った。
- ・移動図書館車つつじ号では、週 2 回木曜日・金曜日、市内 17 か所の公民館、老健施設、養護学校を中心に巡回貸出を行った。別に貸出文庫としてセットでの配本を市内小学校、子育て支援センターなど 33 か所に行った。
- ・特別展示として、米子市と同じラムサール条約登録地域である苫小牧市の図書館と交換展示を行った。また、郷土史料の特別展示として「米子の無教会主義キリスト者 藤澤武義」の展示を行った。
- ・編集・発行物等として、「だっこでえほん」、「ふるさと米子探検隊」などの発行を行った。

○資料 2 「令和 4 年度職員研修実績」

- ・図書館の職員は日々様々な業務があり多忙であるが、可能な限り各種研修を受け、研鑽を積んでいる。

○資料 3 「令和 4 年度図書館費決算明細書」

- ・電気代の高騰などにより光熱水費は当初予算を超えて決算することになった。
- ・計画のとおりプロジェクタを 1 台購入した。
- ・図書資料費は、予算額を全額執行した。

○口頭報告

- ・来館者数はコロナ前の令和元年度比の 8 割まで回復した。個人の貸出冊数は令和元年度の 9 割まで回復した。新規の登録者が令和元年度の 7 割相当であり、まだ回復した状況とはいえない。事業の実施回数は、大きくコロナ前の令和元年度を越える実績を積み上げた。
- ・令和 4 年 11 月に自衛消防訓練（火災を想定した通報訓練・消火訓練・避難訓練などの総合訓練）を実施した。

《委員質疑・意見》

- ブックスタート支援事業がふれあいの里で行われていることを資料 1 の備考欄に書いてあれば理解しやすい。

○資料2の職員研修実績を見ると、リモートによる研修への出席が多いが、これはコロナ禍によるものか、できればリモートでないほうがよい。機会があれば実地の研修も積極的に受けてほしい。

⇒(事務局) コロナの流行時期は、リモートにせざるを得ないときもあった。リモートは、複数の職員が受講できるという利点もある。

○職員のスキルは必修であるので、是非、必要な研修会には参加して学んでほしい。

○図書カード(図書貸出利用証)を無料で作れる、本を無料で借りられるということを知っていない方がまだ結構いる。例えば市報に「図書カード作りませんか?」の1行でも良いので入れてほしい。

⇒(事務局) 市報で、そういうスペースを確保していきたい。

○イベントに出かけて行くなど何か行動しないと図書カードの普及にはつながらない。

(2) 令和5年度事業計画及び予算について

《事務局説明》

資料4及び資料5について説明した。(概要は以下のとおり)

○資料4「令和5年度図書館事業計画」

- ・今年度も7つの運営方針と施策によって、乳幼児からお年寄り世代まで様々なニーズをもった方々に対して選書やガイダンスを行っていききたい。特に、協議会で意見のあった若い世代の図書館利用促進については、重点的に学校・地域関連機関と連携して行っていききたい。
- ・放送大学コーナー・放送大学との連携では、現在テキスト480タイトル所蔵。これにより資格取得、大学卒業資格取得、転職、キャリアアップの応援をしていききたい。令和4年度は、年間540冊程度の貸出となっている。
- ・マルチメディアデジターやサピエ図書館の利用促進を図っていききたい。
- ・対面朗読サービスについては、利用促進に力を入れたい。鳥取県ライトハウスで活動されている朗読ボランティア「スピリット」さんの協力により、予約制ではじめていききたい。
- ・子どもの読書活動の推進としては、乳幼児からの継続した読書活動支援を、園・学校・地域・関係機関の連携により行っていききたい。
- ・社会教育施設との連携では、公民館・美術館・山陰歴史館・児童文化センターなどの社会教育施設との連携を今まで以上に意識的に行っていききたい。
- ・ボランティアの育成と連携では、公募ボランティア5名に書架整理を中心に行ってもらい、またイベントにも参加してもらっている。また、司書課程を取っている学生さんなど若い方とも連携し育成したい。
- ・ビジネス支援としては、「高校生のためのビジネスプラン作成講座」を行っていききたい。
- ・子どもの読書活動推進事業としては、酒井康宏さんを講師にお呼びし、中高生をターゲットにした英語の短編集を楽しい解説付きで味わってもらおう講座「英語で楽し

む物語」を開催する。

- ・山梨県の児童文学者「杉山亮さん」を講師にお呼びして、親子を対象とした物語ライブと、一般を対象とした講演会を開催することを計画している。
- ・今年度も館内見学等の受け入れを積極的に対応していく。保育園・小学校、公民館からも予約をもらっている。5月には日本海情報ビジネス専門学校の学生さんが見学とテーマに沿った資料による学習に来てもらった。
- ・移動図書館車の巡回としては、今年度も17か所の公民館・高齢者施設を巡回し、貸出文庫も33か所を回る予定である。

○資料5「令和5年度図書館費予算明細書」

- ・歳入に寄付金700万円を計上しているが、これは、米子市自治連合会からの寄附金である。(移動図書館車の更新経費の一部に充当予定)
- ・歳出では、電気代の値上がりに対して光熱水費を大きく見込んでいる。
- ・歳出の備品購入費は、移動図書館車更新のため大きく上昇している。
- ・図書資料費は、前年度並みの予算計上となっている。

《委員質疑・意見》

○資料5の予算明細書で歳入と歳出の金額の桁が全く違い、この読み方が分からない。この予算書・決算書というのが、通常私たちが見るものと違うので、事前に説明がほしい。

⇒(事務局)市の一般会計の予算は、全体としては歳入と歳出が一致しているが、個別の事業については、当該事業を賄うために充てる歳入(特定財源)は歳出の金額の一部に限られる。特定財源で足りない部分は、他の事業も合わせて全体として税金や地方交付税交付金など(一般財源)で賄っている。予算(決算)明細書に説明文を入れることを考えたい。

○図書館職員の研修が、旅費交通費10万円で可能なのか。(遠方を含め)研修に行く機会を与えてあげてほしい。

⇒(事務局)鳥取県図書館協会から助成が出る場合もあり、また、公用車を使うと旅費対象外となる。県外に出ていく計画を立てるときには、財団とよく相談していく。

○移動図書館車の更新経費に充てる寄附金は、米子市自治連合会の70周年事業で行われるものと理解してよいか。

⇒(事務局)70周年を迎えた米子市自治連合会が記念事業を検討された中で、候補としてあがってきたのが移動図書館車であった。市民の皆様にお世話になるので、この場を借りて感謝申し上げる。

○どんどん社会が変わり、学校では育てたい「こども像」が変わってきている中で、図書館のWi-Fiのことや電子書籍のことなど、新しいことがどんどん出てきている状況にある。令和5年度の事業計画を見る中で、いまの社会の変容にあわせてこうあるべきだというものをもっとあってもいいのではないか。みんながスマホを手にして何かあればググって調べる、という中で図書館の価値をどこにもっていくか、すごく求め

られているところだと思う。

○学校ではWi-Fiを含めてギガスクール、タブレットが配られて手にしている。そんな中で図書館にはWi-Fiが入っていない、時代のニーズに合ったもの、子どもたちが喜ぶもの、必要なものを聞くのはいいチャンスだと思う。前向きに検討してほしい。

○Wi-Fiは、公民館に昨年度全部ついて、夏休みの子どもたちが使えるようにやっていると聞く風になっている。図書館も同じように、特に高校生などは勉強に来ると思うので、役立つと思う。

⇒(事務局) 予算全体としては、移動図書館車の更新もあって、なかなか新しいものにお金を割くというのが難しい状況にあった。Wi-Fiも市内部での検討の中で、なかなかコンセンサスを得られないという状況があったが、改めて検討していく。

○探求的な学びが学校現場の中で増えてきている中で、中学校では、地域を活性化するために何が必要だろうというテーマで興味関心があるところに行く学習をするが、図書館は話題に全く出てこなかった。その辺いかにPRするか、我々の力も足りないと思う、そういったところから考えていかないと時代に取り残されていく。

○学校の図書館も楽しいけど、市立図書館にはもっとたくさんの本がある、また来たいなどと思ってもらえることが大事であり、小学生はまず現場で見るということが大事である。

⇒(事務局) 図書館を知らない子どもたちには保護者も含めて一度図書館に来ていただくよう、学校と連携させていただき働きかけを考えてみたい。先生方のご協力もいただきながらやっていきたい。

○図書資料費が目減りしなかったのはすごいと思うが、今後、書籍は高騰し上がっていくと思うので、予算はこのまま横ばいではなく、増やしていくように頑張ってもらいたい。

(3) その他

《事務局説明》

資料6から資料9までについて説明した。(概要は以下のとおり)

○資料6「図書資料費の推移」

- ・数年間の図書資料費の推移を書いている。財政状況を考えると一定額を維持するのが精一杯という状況である。毎年、図書のご寄付をいただくことがあり、これを含めて増冊を図っている。

○資料7～資料9「米子市立図書館の現状のポイント」ほか

- ・令和4年度の来館者数が約26万4千人で、これは前年度比2.2%増、令和元年度比で82%となり、回復をみせてきている。
- ・令和4年度の個人の貸出冊数では、約63万冊で、前年度比マイナス3.3%、令和元年度比92%となり、だいぶコロナ禍前の水準に戻りつつある。
- ・分野別の内訳も例年通りで、児童・文学・工学といった順番が多い。
- ・年齢別利用状況は、「9歳まで」と「50歳から」は増加傾向であるが、その他の世代は減少傾向にあり、若い世代の割合も減ってきている。これは少子高齢化の影響

も出てくる部分だと思うが、若い世代への働き掛けなど図書館を利用してもらう取組が必要と考えている。

- ・令和4年度の新規登録者数は、1870人で、前年度と比べて減少、令和元年度比72%となった。まだコロナの影響がある。
- ・令和4年度の蔵書冊数は、約35万冊で、前年度と比べて1%の伸びであるが、例年より多い9638冊の除籍を行ったことが影響している。コロナ禍において除籍予定の書籍を、図書館祭りの古本市で配る予定のものとして残し、後ろ倒しにしたことも関係している。
- ・蔵書のうち、児童図書の占める割合が約4分の1である。これは以前から同じ推移である。
- ・他市との比較を見ると、蔵書数は1人当たり2.3冊、貸出冊数は1人当たり4.4冊、図書購入費は1人当たり175円で、他市平均並みというところである。
- ・図書が何回貸し出されたかという数字では、本市が1.88回で、他市平均を少し上回っている。
- ・登録率は55.9%で、他市平均より高い率になっている。

《委員質疑・意見》

○他市との比較で、倉吉市の登録率が高いが、何か特別な理由があるのか。

⇒(事務局)人口が少ない市は分母が小さいので、率は大きくなりやすいが、倉吉市が何か頑張っておられるのかなと思う。倉吉市に聞いてみたい。

《その他委員発言》

○去年の3月に「第4次子どもの読書活動推進ビジョン」が策定されたが、作りっぱなしでは浸透は厳しい。

⇒(事務局)ビジョンの進み具合については、関わってもらった施設から、「こういう活動をしていますよ、こういう風に進んでいますよ」という報告をいただくようにしていきたい。

○ふるさと米子探検隊は、昔から好きで、作るの大変だろうなと思いながら読ませていただいている。

○シニア世代として、最近の技術の進歩は、まったく習っていないのでわからないが、大変だなと思っている。是非、地域の知の拠点として、そういう学びの場とか情報共有の場とか利用させていただければと思う。

○倉吉市の商業施設の中にブックポストがある。本を借りるのはいいけれど、返す手間を考えたとき、ここにもあそこにも返せる場所があれば、図書カードを登録するハードルがちょっと下がると思う。

○子育て世代としては、小さい子どもが図書館に寄らせてもらって、本がいっぱいあって、仲間がいて、読み聞かせがあつて、お母さんたちとのつながりができて、子どもたちも全然つながりのない子たちとつながりをもてて、素晴らしい場所だと思う。そういうお母さんたちも含めてWi-Fiがあるといいかなと思う。

- 昨年度決算で歳入に寄付金がなかったというのは、現金の寄付金がなかったということか。
- ⇒（事務局） そうである。図書を購入いただいたものを寄贈いただくことが多い。
- 自分の家庭教育の活動の中で、乳幼児・保護者との対面が多いので、新規に図書カードを作りに行きませんかという声かけをしていこうかと思った。
- 図書館の裏の公園の遊具が、使えなくなっている。修理を早くしてほしい。
- 学校では、コロナが収まって、今年からどんどん学校・地域をフィールドとして様々な活動をしていく準備をしている。市立図書館にも入っていけるように呼びかけをしていく。
- 小学校もまた見学が増えるかもしれない。よろしくお願ひしたい。また、学級文庫も市立図書館からもらっている。子どもたちがいろんな本に触れることができるというのも素晴らしい文化だなと思う。またよろしくお願ひしたい。
- お昼ご飯を食べられるところが図書館にないのがとても残念である。2階のベランダで食べることができたら喜ばれる。

5 閉 会